

英語科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】【外国語表現の能力】

- コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーション能力を身に付けさせる。
- 外国語で話したり、書いたりして自分の考えを表現させていく。

学年	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な改善策	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> • 話す活動は積極的に行うが、書く活動に関しては苦手意識を感じている生徒が多い。 • 授業中に頑張って発言する生徒は多いが、自発的に家庭で地道に単語や文章を書いて覚える生徒は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 毎日ノートによる書く活動を継続的にを行い、書く手立てをきちんと指導する中で、苦手意識を払拭する。 • 家庭の協力を求めながら家庭学習を徹底させ、宿題を毎回チェックする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 毎回 • 毎回 	<ul style="list-style-type: none"> • 毎日ノートによって日々英語に触れる機会を増やすことができた。 • 家庭学習をする習慣が身に付いてきた。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> • 話す活動は積極的に行う生徒が多いが、児童・生徒の学力向上を図るための調査などから書く活動が苦手な生徒も多くいることがわかった。 • 異文化に関する勉強は楽しんで行うが、文法理解はしづらい生徒が多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」の5領域について、授業で繰り返し指導を行う。 • 家庭学習と授業を上手く結び付け、英語に触れる機会を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> • 毎回 • 毎回 	<ul style="list-style-type: none"> • 依然として、書く活動が苦手な生徒が多く、さらなる工夫を図っていく。 • 家庭学習をする習慣が身に付いてきた。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> • 受験生ではあるが、学習意欲に大きな差が見られ、自分の気持ちを書く活動では苦手意識を持つ生徒が多く見られる。 • 領域診断テストなどから、長文問題が苦手な生徒が多くいることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> • パフォーマンステストを取り入れ、ライティングの練習も授業内で行っていく。 • 高校入試の過去問などを使い、長文問題の解き方を指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> • 適宜 • 2学期総括単元テスト後～ 	<ul style="list-style-type: none"> • 都立高校の過去問を用いて英作文の演習を行うことによって、書く活動に対して意欲を高めることができた。

■主体的・対話的で深い学びに関連して

- 1年 課題提示の工夫、ペアワークの充実
- 2年 課題提示の工夫、グループ活動の充実
- 3年 課題提示の工夫、グループ活動の充実

■小中一貫教育共通プログラムに関連して

- 1年 授業中心の振り返りと宿題の提示
- 2年 授業中心の振り返りと宿題の提示
- 3年 授業中心の振り返りと宿題の提示

